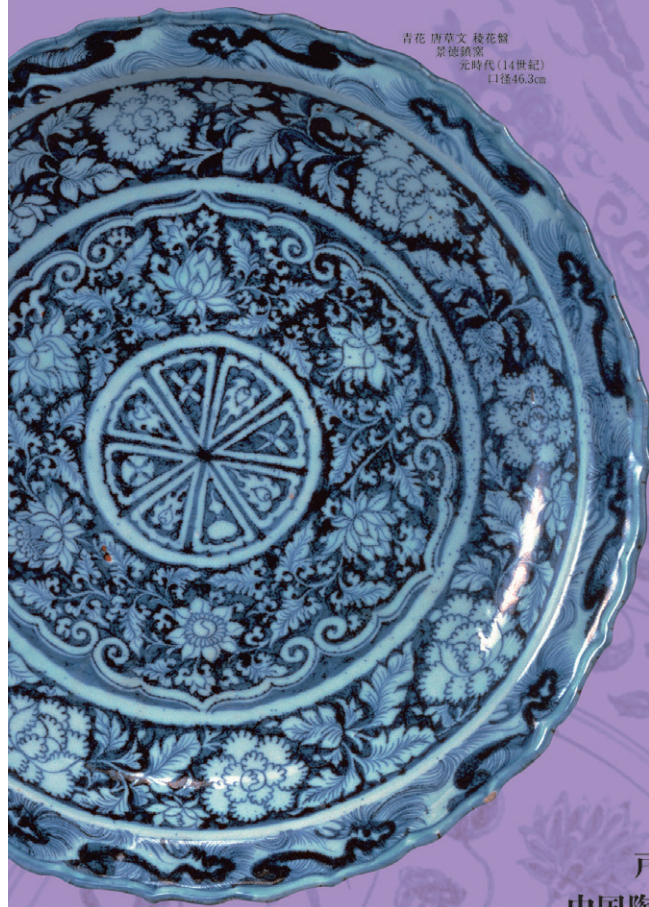


開館35周年記念特別展

戸栗美術館

名品展Ⅱ

Toguri Museum, Best of Collection: Chinese Porcelain



青花 唐草文 枝花盤
景德鎮窯
元時代(14世紀)
口径46.3cm



青花 草花文 盤
景德鎮窯
明時代永楽年間(1409~21)
口径63.5cm

— 中国陶磁 —

戸栗美術館の
中国陶磁コレクションを
15年振りに大公開!

2022年11月21日(月)～12月29日(木)

「中国の陶磁は世界の宝物。なかでも官窯のきれいなものがいい」。当館創設者 戸栗亨 (1926～2007) は伊万里焼や鍋島焼などの日本の磁器を数多く蒐集しましたが、冒頭の言葉にあらわれているように中国陶磁にも高い関心を持ち、優品の取得に尽力しました。

景德鎮官窯の作例の中でも、とりわけ愛好していたのが青花です。青花とは、コバルト顔料による釉下彩の技法。元時代後期にあたる14世紀に景德鎮窯で確立され、明時代前期に開始される官窯でも受け継がれました。美しい白地に映える清廉な青色、端正な筆致、時代の趣を反映した雄渾さや優美さを備えた文様構成など、完成された姿に感じ入るところがあったのでしょうか。

今展では、館蔵の明時代前期の景德鎮官窯の青花をはじめとした中国陶磁、約80点を15年振りに一挙公開いたします。戸栗の審美眼によって精選されたコレクションをご高覧ください。

主な出展作品

今回の展覧会では、展示室ごとに「各地の名窯—宋から清時代まで—」（第1展示室）、「景德鎮官窯の威風」（第2展示室）、「深遠なる古代陶磁」（第3展示室）などとテーマを設けて展示いたします。ここでは、戸栗の言葉も交えながら、主な出展作品をご紹介します。

第1展示室 「各地の名窯—宋から清時代まで—」

定窯ていようや龍泉窯りゅうせんよう、磁州窯じしゅうよう、鈞窯きんよう、建窯けんよう、景德鎮窯など、中国を代表する窯の作例をご紹介します。

「当館にある一番いい青磁は『玉壺春』といって元代の龍泉窯のものです」

②青磁瓶

龍泉窯 元時代（14世紀） 高 27.6cm

青磁で名高い龍泉窯の作。本作のような下膨れ形の瓶は、玉壺春瓶と通称される。暈付を除いた総体に、わずかに緑味を帯びた艶やかな青磁釉を掛ける。一切の文様を排し、形姿と釉調を追求した気品漂う優品。



第3展示室「深遠なる古代陶磁」

彩陶さいとうから緑釉陶器りよくゆう、唐三彩とうさんさいまで、古代中国のやきものを展示いたします。



凜然とした佇まいの唐三彩の大馬

①三彩馬

唐時代（8世紀） 長 76.3cm

体部に白泥を置いて白斑をあらわした馬。唐時代は厚葬文化が流行し、貴族の墓にはこのような大型で華やかな唐三彩が多数副葬された。三彩では馬の作例は少なくないが、その中でも白を基調とした本作は格調高い美しさを湛えている。



「(元時代の) 末期とはいえ力強く、最後の輝きを見せるような趣があります」

③青花唐草文稜花盤

景德鎮窯 元時代（14世紀） 口径 46.3cm

景德鎮窯では、元時代後期にあたる14世紀に青花の技法が確立された。本作では見込中央から八宝文、蓮文、牡丹唐草文、波濤文を、背景を塗り詰めて白抜きであらわしている。元青花特有の重厚な青色や、濃密な文様構成が荘厳な印象をもたらす大盤。

第2展示室 「景德鎮官窯の威風」

明時代前期の景德鎮官窯の青花を中心に、清時代初期までの優品を展覧いたします。



「これだけきれいに発色しているのは、ほかにないでしょう」

④釉裏紅 菊唐草文 瓶

景德鎮窯 明時代洪武年間（1368～98） 高 32.2cm

胴部に釉下彩で菊唐草文をあらわした玉壺春瓶。銅呈色の釉裏紅は焼成が難しいとされ、予期した成果を得られていない作例が多いが、本作は完好な焼き上がりである。文様構成や釉肌、発色などの点からみて屈指の名品。



「長い歴史に彩られた中国陶磁史の膨大な成果が、ついにこの1点に集約されていると思われてなりません」

⑥豆彩 葡萄栗鼠文 瓢形瓶

景德鎮窯 清時代雍正年間（1723～35） 高 12.4cm

たわわに実を付けた葡萄の一枝を左上から右下にかけて描き、背面には葡萄を食む栗鼠をあらわす。小品ながら、端正な形姿によく合った格調高い筆致、上品な発色など、見事な仕上がりである。



濃淡を巧みに活かした精細な筆致、技術の冴えが遺憾なく示された大作

⑤青花 草花文 盤

景德鎮窯 明時代永楽年間（1403～24） 口径 63.5cm

見込圏内に菊や桔梗、蓼など多種の草花と奇岩を配した盤。口径 60cm を超える大作でありながら、繊細な線描や濃淡を駆使した丁寧な絵付けである。美しい白色の磁肌を余白として活かした構成で、優美な印象を醸し出している。



「三彩馬」とともに（開館当時に撮影）

「先人の伝え受け継いできた一つ一つの作品には、ものに対する愛惜の念や、美しいものを求めてそれを喜ぶ素直な感情が籠められています。古陶磁のもつそんな貌と触れあうことが私の楽しみ」

創設者 戸栗亨（1926～2007）

山梨県生まれ。戦後、古民具の蒐集を開始し、昭和40年頃から「鑑賞陶磁」に目覚める。美術館建設を夢とし、体系的かつ質の高いコレクション形成に邁進した。1987年、念願の戸栗美術館を開館し、初代館長に就任。

※作品①～⑥および展覧会ポスターの写真データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。また、ご取材も随時承っております。お気軽にお問合せくださいませ。

展覧会紹介文

どうぞご利用ください。

■ 25words

館蔵の中国陶磁コレクションを15年振りに一挙公開。

■ 100words

15年振りの開催となる館蔵品による中国陶磁展。創設者 戸栗亨の審美眼によって精選されたコレクション約80点を一挙公開する。明時代前期の景德鎮官窯の青花を中心に、古代から清時代初期までの作品を展示する。

展覧会情報

- 名称：『開館35周年記念特別展 戸栗美術館名品展Ⅱ—中国陶磁—』
会期：2022年11月21日（月）～12月29日（木）
会場：戸栗美術館
所在地：東京都渋谷区松濤1-11-3
開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
※金曜・土曜は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）
休館日：月曜・火曜
※開館記念日にあたる11月21日（月）・22日（火）は開館。
入館料：一般1,500円 / 高大生500円
※中学生以下は入館料無料。
交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。
同時開催：『景德鎮探訪記』（やきもの展示室）

本展覧会会期中の催し物のご案内

ラウンジトーク

『戸栗美術館名品展Ⅱ—中国陶磁—』の見どころ

1階ラウンジにて、スライドを使って展覧会の見どころをご紹介します。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください（予約不要）。

- 11月26日（土）・12月14日（水） 各日10:15～（約45分）
■ 各日先着20名様 ■ 参加費無料

ラウンジ&ギャラリートーク

「戸栗コレクションの中国陶磁」

前半は1階ラウンジにて戸栗美術館の中国陶磁コレクションを概説し、後半は2階展示室にて展示解説を行います。

- 12月5日（月） 14:00～（約120分）
■ 先着20名様 ■ 参加費1,500円（税込）（入館券を別途お求めください。）
■ 要事前予約

次回展予告

開館35周年記念特別展 初期伊万里・朝鮮陶磁

2023年1月15日（日）～3月26日（日）

17世紀前期に誕生した伊万里焼と、その技術的な基盤となる朝鮮半島の陶磁器を展示いたします。



青花 菊蘭文 角瓶
朝鮮
朝鮮時代（19世紀前半）
高 15.1cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛
〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3
TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813
URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/> E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp